

令和4年度 奈良県立奈良高等学校 学校評価総括表

年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	「自主創造」の学びを通して、日本、世界のよりよい未来に貢献していくグローバルリーダーの育成
年度重点目標	○授業等の改善・充実・・・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め共有化を図る ○豊かな人間性と実践力の育成・・・授業や特別活動等、幅広い経験を通して人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する ○生徒の自己実現を図る進路目標の設定と達成に向けた取組を支援・・・教育活動全体をとおして、自他の個性を尊重し、主体的に進路選択できる能力・態度を育む教育を実践する

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針  本校が求める生徒像 (アドミッション・ポリシー)	<b>「自主創造」型自己変革の追求</b> 高い理想と目標に向けて、絶えず知性を磨き、自主的な判断と行動を通じて、真摯に人格の成長を目指す生徒を求めます。 ①積極的な勉学や課外活動を通して、豊かな知性の創造を目指していくような、明るく豊かな活力のある生徒 ②人間としての在り方・生き方を自覚し、堅い意志をもって自らの行動を律する主体性をもった生徒 ③自由と責任を自覚するとともに、人間尊重の精神を基盤として、多くの人と敬愛と信頼に満ちた人間関係を築くことができる生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針  本校が展開する教育活動 (カリキュラム・ポリシー)	<b>主体的・未来志向型の学び</b> 未来を生きる生徒の能力や個性を最大限に伸ばすため、「自主創造」の学びを通して、深い思考力・豊かな知識の涵養を図る教育を創造します。 ①主体的・探究的な学習により、生徒の高い理想と多様な未来につながるような確かな資質・能力を身に付けることができる教育課程を編成します。 ②科学的思考力に企画提案力・マネジメント力を付加していく教育プログラムにより、科学技術系グローバルリーダーを育成します。 ③生徒が「自主創造」の精神を発揮しながら、笑顔が輝く学校生活を実現していくような教育内容を創造する。また、地域との双方向の連携を構築する中で、地域から世界に発展的に貢献していく人材の育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針  本校を卒業するまでに身に付けさせる力 (グラデュエーション・ポリシー)	<b>次世代型competenceの育成</b> 「自主創造」の精神を承継し、「自ら学び、自ら考え、自ら開拓する」姿勢を身に付け、日本、世界のよりよい未来に貢献していく人材を育成します。 ①豊かな知識、論理的・科学的思考力及び客観的判断力を基盤として、物事を様々な角度から多面的に捉え、本質を見極める力を育成します。 ②人の優しさ、心の痛みに気付き、そこから他人への感謝や相手を気遣うような「繊細で温かい心」を育てます。 ③国籍、文化の違いを超えて物事を捉え、日本や世界のよりよい未来の実現に主体的に貢献していくグローバルリーダーを育成します。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)
1 こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	事故・けがを予防する能力や態度の育成	日本スポーツ振興センターへの災害共済給付申請数を20%削減	日本スポーツ振興センターへの災害共済給付申請数を10%削減			
	自ら健康の保持増進を図る意欲の向上	定期健康診断後の受診率20%向上	定期健康診断後の受診率10%向上			
	体力の向上	新体カテストで、全種目全国平均を上回る	新体カテストで、全国平均を上回る種目が80%以上			
	教育相談活動の推進	全ての教員スクールカウンセリング研修会やスクールソーシャルワーカー等の事例検討会、又は生徒理解にかかる研修の機会に参加	全ての教員が今年度1回以上スクールカウンセリング研修会やスクールソーシャルワーカー等の事例検討会、又は生徒理解にかかる研修の機会に参加			
2 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートにおいて、「授業を受けて、力がついたり、知識が豊かになったと実感できる。」と回答する生徒の割合が70%以上	授業アンケートにおいて、「授業を受けて、力がついたり、知識が豊かになったと実感できる。」と回答する生徒の割合が60%以上			
		課題研究の個人用ルーブリックにおける課題解決力・科学的探究力の観点で、「十分満足できるレベル」(複合的なアプローチを行う。複数の科目領域の手法を用いる。継続的に探究活動を進展させる。)以上の評価をする生徒の割合が70%以上	課題研究の個人用ルーブリックにおける課題解決力・科学的探究力の観点で、「十分満足できるレベル」(複合的なアプローチを行う。複数の科目領域の手法を用いる。継続的に探究活動を進展させる。)以上の評価をする生徒の割合が60%以上			
		授業交流・公開授業において、教科・科目の枠を越えて、授業見学や公開授業を各教科で実施	全ての教員が、教科・科目の枠を越えて、授業見学や公開授業を実施			
	学習意欲の向上	授業アンケートにおいて、「考えたり、活動したり、問題を解いたりする機会が授業中にほぼよく確保されている。」と回答する生徒の割合が70%以上	授業アンケートにおいて、「考えたり、活動したり、問題を解いたりする機会が授業中にほぼよく確保されている。」と回答する生徒の割合が60%以上			
		課題研究の個人用ルーブリックにおける主体性・主体的な活動の観点で、「十分満足できるレベル」(常に積極的に期待以上に取り組む。周囲に前向きな影響を及ぼす。)以上の評価をする生徒の割合が70%以上	課題研究の個人用ルーブリックにおける主体性・主体的な活動の観点で、「十分満足できるレベル」(常に積極的に期待以上に取り組む。周囲に前向きな影響を及ぼす。)以上の評価をする生徒の割合が60%以上			
	深い学びの実現を見据えた文化講座、文化鑑賞会の充実	生徒の知的好奇心を刺激するような内容のものを提供し、満足したと回答する生徒の割合を80%以上	生徒の知的好奇心を刺激するような内容のものを提供し、満足したと回答する生徒の割合が70%以上			
	図書貸し出し冊数の増加及び安定	年間貸し出し冊数の総計を例年の約1,600冊から2,000冊程度に増加	年間貸し出し冊数の総計が約1,800冊程度			

	ICT機器を活用した教育の推進	ICTの活用など探究的な授業を教員の60%が実践	ICTの活用など探究的な授業を教員の40%が実践			
	実践的な避難訓練を通じた防災教育の充実	年1回のシェイクアウト訓練と避難訓練の確実な実施により、避難経路の確認と、防災意識の高揚につなげる	1学期末に全校一斉のシェイクアウト訓練を実施するとともに、4月末に行った避難経路を再確認			
	通学途上の安全確保の取組	通学途上における怪我等における学校保険の適用数の減少	通学途上における怪我等における学校保険の適用数を令和3年度比10%減少			
3 働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア関連行事の充実	関連行事に3年間で1回以上関わる生徒の割合が100%	関連行事に関わった生徒の割合が40%			
		関連行事として、オープンキャンパス、大学探訪、大学研究会、インターンシップ、先輩に学ぶ会を適切な時期に企画	関連行事として、オープンキャンパス、大学探訪、大学研究会、インターンシップ、先輩に学ぶ会を適切な時期に企画			
4 地域と協働して活躍する人を育てる	広報活動の充実	学校行事や生徒の活動の様子及び育友会活動等の様子を伝える 育友会活動の学校ホームページへの記載記事を充実する 学校通信を年2回以上発刊	学校行事や生徒の活動の様子及び育友会活動等の様子を伝える 育友会活動の学校ホームページへの記載記事を充実するとともに、学期に1回・年3回更新 学校通信を年2回発刊			
	地域連携センター平城山の取組の推進	関連行事に、3年間で1回以上関わる生徒の割合が70%以上	関連行事に、3年間で1回以上関わる生徒の割合が50%以上			
	グローバルマインドの育成	海外校との交流機会を年度2回確保し、参加生徒の満足度が90%以上	海外校との交流機会を年度2回確保(総日数:令和3年度比1.2倍)			
5 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の推進	「毎月11日は『人権を確かめ合う日』」を活用して、人権問題と自己の関わり方について考え、行動できる生徒が90%以上	「毎月11日は『人権を確かめ合う日』」を活用して、人権問題と自己の関わり方について考え、行動できる生徒が85%以上			
		人権学習ホームルームにおいて、その内容を理解し、教育活動を評価する生徒が90%以上	人権学習ホームルームにおいて、その内容を理解し、教育活動を評価する生徒が85%以上			
	人権教育の研究促進	教職員に対して、人権教育に関する研修機会の情報を広く知らせ、全体の90%以上の教職員が年間2回以上の研修会に参加	教職員に対して、人権教育に関する研修機会の情報を広く知らせ、全体の85%以上の教職員が年間2回以上の研修会に参加			
	学校いじめ防止方針等に基づく取組	「こころといじめのアンケート」で、「本音や悩みを話せる友達がいる。」と回答する生徒の割合が90%以上	「こころといじめのアンケート」で、「本音や悩みを話せる友達がいる。」と回答する生徒の割合が70%以上			
「ヤングケアラーに関するアンケート」で、「あなたは、今のあなたの状況について、学校の先生に相談したいですか。」という質問において、先生など相談する相手がないと回答する生徒の割合が10%以下		「ヤングケアラーに関するアンケート」で、「あなたは、今のあなたの状況について、学校の先生に相談したいですか。」という質問において、先生など相談する相手がないと回答する生徒の割合が20%以下				

### 3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--